

有明海漁業実態調査

シバエビ漁獲状況調査

大渡 功晟

有明海の重要な水産資源の一つであるシバエビ *Metapenaeus joyneri* は、近年、漁獲量が増加傾向にあるものの、今後も持続的に漁獲利用していくためには、資源管理対策を講じていく必要がある。しかし、これまでにシバエビの漁獲動向に関する研究は、有吉ら¹⁾や徳田²⁾が報告しているのみで、近年の有明海における漁獲動向については報告がない。そこで、シバエビを漁獲している投網漁業者に操業船日誌の記入を依頼し、操業状況について調査したので報告する。

文 献

- 1) 有吉敏和・皆川 恵・伊藤史郎・中島則久・吉本宗央(1999) : 有明海湾奥部のシバエビの漁業と生態, 佐有水研報. (19), 25-36.
- 2) 徳田真孝(1994) : 今川河口域におけるシバエビの成長および発生量からの漁獲予測, 福岡水技研報. (2), 43-52.

方 法

調査では、佐賀県有明海漁業協同組合大浦支所に所属する投網漁業者4名を選定し、2023年4月～2024年3月までの期間、出漁日に操業場所、漁法、漁獲量について操業日誌の記入を依頼した。得られた日誌の情報を基に毎月の平均漁獲量、CPUE（1人1日あたりの漁獲量）を推定し、漁獲の状況を明らかにした。

結 果

投網における月別の平均漁獲量およびCPUEを図1に示した。投網によるシバエビの漁獲は10月から3月にかけて行われた。平均漁獲量は、10月から2月にかけて0～6,209.5kgまで増加し、その後、3月には1,896.1kgまで減少した。CPUEについても、平均漁獲量と同様の傾向を示し、10月～3月にかけて0～653.6kg/人/日となった。

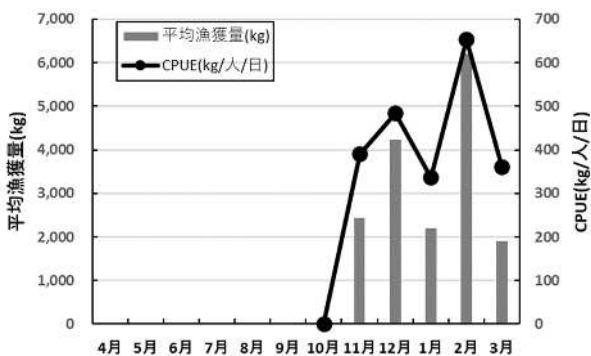


図1 投網によるシバエビの平均漁獲量およびCPUEの推移